

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【石川県小松市】

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	小松市立松東中学校 第2学年 石川県立小松特別支援学校 中等部
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	両校の生徒がともに活動することを通して親睦を深める。 活動を通して個性を尊重しながら相互理解をより深めるとともに、 自分の生き方を考える。
5 取組内容	小松特別支援学校との交流活動 ○体育館玄関で迎え案内する ○「始まりの会」 歓迎の言葉 松東中学校生徒代表 日程説明 ○「交流活動」 グループごとに自己紹介と質問タイム ゲーム開始 1. 紙飛行機飛ばし 2. バクダンカルテット 3. ボッチャ



ゲーム1 紙飛行機飛ばし



ゲーム2 バクダンカルテット



ゲーム3 ボッチャ

○「終わりの会」

小松特別支援学校生徒代表 挨拶

お別れの言葉 松東中学校生徒代表

松東中学校校長 あいさつ

○体育館玄関で見送り

6 主な成果	グループごとに分け隔てなく会話し、休憩時間も一緒に遊んだり話をする姿が見られた。生徒が一人ひとりの障害の違いに気付く事ができ、それぞれに合った交流ができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	活動の中にゲームを通して交流を図る取り組みを行った。パラリンピック競技である、「ボッチャ」を取り入れた。事前にルールの確認を全員で学習し、体験できるようにした。ルールを理解し審判や運営も生徒が自ら行った。
8主な課題等	年に複数回交流活動が出来ると良いが、各学校の年間行事等での調整が難しく、毎年時期を検討しながら行わなければならない。
9来年度以降の実施予定	第1学年が石川県立小松瀬領特別支援学校、第2学年が石川県立小松特別支援学校と年1～2回交流を行う予定である。

